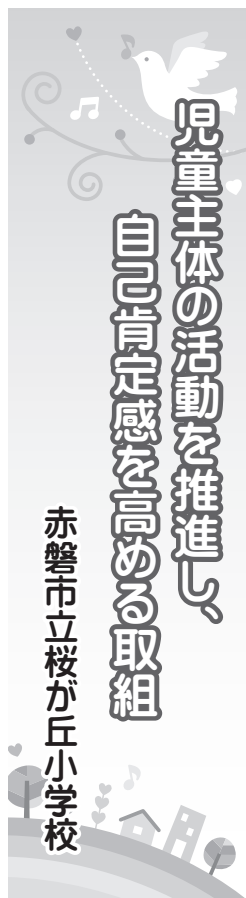


# 広げよう！優良実践の輪！

～ 令和元年度 優良実践校の取組 ～

取組 3



## 1 はじめに

本校は、赤磐市の南部に位置している児童数362名の学校です。かつては授業に集中できにくい児童、個別の支援を必要とする児童が少なくありませんでした。そこで、児童が主体となった活動を推進し、自己肯定感を高める必要があると考え、取組を進めました。その概要を紹介いたします。

## 2 取組の内容

### (1) 全員参加の授業づくり

授業では、「ユニバーサルデザイン」の考えを大切にした、「みんなで深め合うことのできる」授業を目指しました。具体的には、全員が主体的に授業に参加できるように視覚支援を充



児童によるあいさつ運動

実させたり、小グループでの話し合いや意見交流の時間を確保したりしました。

### (2) 児童主体の取組の推進

日々の学校生活や学校行事では、「児童に任せ、児童の発想を大切にすること」を重視しま



ボランティアの方との野菜の苗植え

した。特に「『あいさつ、くつそろえ、もくもくそうじ』を桜小のじまんにしよう」という取組では、子どもたちが中心となって委員会活動や係活動に取り組んできました。また、運動会や学習発表会などの学校行事でも、児童の力で進める部分を増やしてきました。

### (3) 地域との連携

100名を超える方々にボランティアの登録をしていただいております。地域で子どもたちを見

守り、育む体制が確立されています。年間で延べ4000人を超えるボランティアの方から、学習、登下校の見守り等、様々な面で支援を受けてきました。

### (4) 働き方改革

「働き方改革」にも積極的に取り組み、時間外業務時間の縮減はもとより、教材研究の時間の確保等、教員が指導により一層専念できる環境づくりに取り組んできました。

## 3 おわりに

このような取組の結果、みんなで深め合う授業づくりや児童主体の活動による特別活動の活性化が推進され、児童の「自分たちの学校を自分たちの力でよくしていこう」とする意識の高まりにつながりました。引き続き、地域との連携を大切にしながら、児童主体の取組を推進していきたいと考えています。

(校長 羽原敬一)

# 小中学校が連携した 学習習慣形成の取組

久米南町立久米南中学校区

## 1 はじめに

本中学校区は、岡山県のほぼ中央に位置し、1中学校(久米南中学校)と3小学校(弓削・誕生寺・神目小学校)によって構成されています。4校とも各学年1クラスの規模校であり、学習環境は落ち着いています。家庭学習の時間が年々減少傾向にあることに危機感を抱いていました。そこで、平成30年度から家庭学習習慣の改善と児童生徒の自律性の向上に向けて、4校で協力して研究を進めていくこととなりました。

## 2 取組の概要

取組を始めるにあたり、4校の研究主任を柱とする学習習慣形成推進委員会を立ち上げました。委員会では取組の方向性を定めるために、4校の教員を対象にアンケート調査を実施し、児童生徒の状況や課題を明確にすることから始めました。その結果を受けて、「家庭との連携」「意欲を引き出す家庭学習の工夫」「自己マネジメント力の育

成」を取組の三つのポイントとして決めました。

### (1) 家庭との連携

①「家庭学習のすすめ」の作成  
保護者を巻き込んだ取組とするために、家庭学習の意義等をまとめた「久米南町版家庭学習のすすめ」を作成しました。個人懇談会等を利用して配付し、意図を説明しながら直接協力を依頼しました。

### ② 町PTA連合会との連携

年度当初の会議で学校の取組への協力や連動した活動の実施



町PTA連合会：「子どもたちの生活習慣を考えよう」

を依頼しました。子どもの健やかな育ちに向けた研修会の実施等、保護者自身の学びの場も設けました。

### (2) 意欲を引き出す家庭学習の工夫

#### ①「ぐんぐんノート」の作成

小中9年間の発達段階に応じ、3種類の久米南町統一自主学習ノートを作成しました。保護者へのメッセージや自主学習のアイデアを掲載したり、めあてや振り返り、学習時間等の欄を設けたりと児童生徒が自主的に学習に向かうことができるよう工夫しました。

#### ② フィードバックの工夫

ノート点検では、4校で共通理解を図り、児童生徒のやる気高めるような励ましのコメントを記入するようにしています。さらに、ノートの好事例を定期的に各校で掲示して交流し、学習内容に対する意識を高めることができるようにしています。中学校では、全員提出を目指して生徒が点検・声掛けを行い、提出率も向上しました。

### (3) 自己マネジメント力の育成

#### 開催

中学校2年生と3小学校の5・6年生全員が参加する「久米南中学校区スマホサミット」を2年連続で開催しました。中学生が運営に当たり、現状報告や

寸劇により問題を提起した後、小中合同のグループでメディアコントロールを中心とした生活習慣の在り方について考えました。保護者や地域住民の参加も得て、意識改革を狙う取組になっています。



スマホサミット：小中合同グループ討議の様子

## 3 今後に向けて

「ぐんぐんノート」や「スマホサミット」の取組を通して、児童生徒の学習習慣改善への意識の高まりや生活の変化を感じることができるようになりました。

今後も、児童生徒が生き生きと活躍できる場を設定することで自己有用感を育み、保護者の協力を得ながらこの取組をさらに推進し、自己マネジメント力の育成を図っていききたいと考えています。

(前年度久米南中学校長

近藤 美沙子)